

平成20年度「全国学力・学習状況調査」における春日井市全体の結果について

春日井市教育委員会

1 小学校6年生

ア 教科の状況

状況をみるにあたって

- ・ 教科別・区分別に次の3段階で示す。
「たいへんよくできている」：正答率8割以上
「おおむねできている」：正答率5割以上8割未満
「努力を要する状況である」：正答率5割未満
- ・ それぞれの教科で、優れている内容（：正答率7割以上）と努力を要する内容（：正答率5割未満）の一部を紹介する。

教科別・区分別状況

	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	おおむねできている < 正答率6割強 > 漢字を正しく読むこと スピーチの組み立ての工夫をとらえたり、文章の内容に合わせて小見出しを書いたりすること 文章の推敲や目的や意図に応じて段落の内容をとらえること	おおむねできている < 正答率約5割 > 話し手の意図を考え、反応を示したり、内容を深めたりして聞くこと 目的に応じて情報を読み取り自分の考えを効果的に書くこと 物語文の読みで人物の心情と描写を関連付けて読み取ること
	おおむねできている < 正答率7割強 > 整数や小数の計算、分数と小数の関係の理解、平行四辺形の求積、円グラフの読み取り 面積についての感覚	おおむねできている < 正答率5割強 > ある動きを図形の一部としてとらえたり、規則性を読み取ったりすること 2つのグラフから情報を読み取る、また、図形を変えて考えるといった発展的な場面での考察

イ 学習・生活習慣等の状況

状況をみるにあたって

- ・ 学習、生活習慣等の状況調査を基本的な生活習慣・学校、家庭に居場所・自己肯定感・規範意識の4つの観点から分析した本市の全体傾向は、国とほぼ±2ポイントの範囲内であり、同様の傾向を示している。その中で、国と比較して、肯定的な回答の割合が高い項目（：国平均より3ポイント以上高い）、低い項目（：国平均より3ポイント以上低い）の代表的なものを紹介する。

全体の傾向	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日朝食、登校前の持ち物の確認、同時刻に起床等、基本的な生活習慣を身につけている児童が大多数である。 ・ 学校や家庭に居場所がある児童が多数だが、地域とのつながりはやや薄い。 ・ 将来の目標がある、自分によいところがある等の割合が高く、自己肯定感を持つ児童が大多数である。 ・ 校則を守る、友だちとの約束を守る等の割合が高く、規範意識を持つ児童が大多数である。 	
国との比較	
「総合的な学習の時間」の勉強が好き。 < 8割弱 > 家で食事中はテレビを見ないようにしている。 < 2割強 >	自分で計画を立てて勉強している。 < 5割弱 > 住んでいる地域の行事に参加している。 < 5割強 >

ウ 今後の取り組み

国語	算数
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語文の読み取りでは、叙述に即して的確に読み取る指導をすすめる。 ・ 説明文の読み取りでは、書き手の意図を読み手に伝えるための構成の工夫に目を向けさせ、その工夫を「書く」指導に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実生活に結びついた算数指導をすすめる。 ・ 基礎基本の定着とともに、発展的な問題に挑戦させ、数学的な思考力を高める指導をし、自分の考えを分かりやすく説明したり、相互に表現し合ったりするなど論理的表現力を高める。

エ その他

- ・ この調査の結果は、学力の特定的一部分です。

・この調査の詳細は、「平成20年度全国学力・学習状況調査 調査結果について」のホームページ(国立教育政策研究所ウェブサイト)よりご覧いただけます。

<http://www.nier.go.jp/08chousakekka/index.htm>

2 中学校3年生

ア 教科の状況

状況をみるにあたって

・ 教科別・区分別に次の3段階で示す。

「たいへんよくできている」：正答率8割以上

「おおむねできている」：正答率5割以上8割未満

「努力を要する状況である」：正答率5割未満

・ それぞれの教科で、優れている内容（：正答率7割以上）と努力を要する内容（：正答率5割未満）の一部を紹介する。

教科別・区分別状況

	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	おおむねできている < 正答率7割強 >	おおむねできている < 正答率約6割 >
	漢字、語句、古文の理解 話し合いの方向をとらえて、適切な発言をすること 論理の展開をとらえたり、辞書を活用したりすること	登場人物の人間関係を整理したり、心情を読み取ること 複数の資料から必要な内容を選び出したり、読み取った内容を条件に合わせて書き直したりすること
数学	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
	おおむねできている < 正答率6割強 > 分数の計算、整式の計算、連立二元一次方程式の計算、平行線の性質の理解 文字式の意味を具体的事象と関連付けること、垂線、多角形の内角の和、比例・反比例のグラフ、一次関数に関わる問題	おおむねできている < 正答率5割強 > 情報を読み取って的確に処理する力 問題を数学的に理解し、問題解決の方法を数学的に説明すること

イ 学習・生活習慣等の状況

状況をみるにあたって

・ 学習、生活習慣等の状況調査を基本的な生活習慣・学校、家庭に居場所・自己肯定感・規範意識の4つの観点から分析した本市の全体傾向は、国とほぼ±2ポイントの範囲内であり、同様の傾向を示している。その中で、国と比較して、肯定的な回答の割合が高い項目（：国平均より3ポイント以上高い）、低い項目（：国平均より3ポイント以上低い）の代表的なものを紹介する。

全体の傾向	
<ul style="list-style-type: none"> 毎日朝食、登校前の持ち物の確認、同時刻に起床等、基本的な生活習慣を身につけている生徒が大多数である。 学校や家庭に居場所がある生徒が多いが、学校の出来事を家で話す生徒は小学校に比べて少ない。 将来の目標がある、自分によいところがある等の割合が高く、自己肯定感を持つ生徒が大多数である。 校則を守る、友だちとの約束を守る等の割合が高く、規範意識を持つ生徒が大多数である。 	
国との比較	
家で予習をする。 < 約4割 > 数学の授業内容はよくわかる。 < 約7割 >	新聞テレビのニュースに関心がある。 < 6割弱 > 住んでいる地域の行事に参加している。 < 3割強 >

ウ 今後の取り組み

国語	数学
<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章において、論理の展開をとらえるよう指導をすすめる。また、根拠や意図を明確にして目的に応じて効果的な文章を書くよう指導をすすめる。 言語事項等について、辞書で調べる習慣を身につける指導をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活に結びついた数学指導をすすめる。 論理的に自分の考えを分かりやすく説明したり、相互に表現し合ったりするなど数学的な思考力を高める指導をすすめる。

エ その他

・ この調査の結果は、学力の特定の一部です。

・ この調査の詳細は、「平成20年度全国学力・学習状況調査 調査結果について」のホームページ(国立教育政策研究所ウェブサイト)よりご覧いただけます。

<http://www.nier.go.jp/08chousakekka/index.htm>